

介護保険制度は、持続可能？ ～コロナ禍後を考える～

新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言と解除後の暮らしは、私たちの日常生活が多くの制度とその支えの上にあることを実感させました。医療現場や介護現場では、この間の矛盾や問題が顕著になりました。介護・医療現場の頑張りで何とか「崩壊」は免れていますが、守るべきものと採られた政策の矛盾が露呈しています。

介護保険制度スタートから20年。あと5年で団塊の世代が後期高齢者に、15年で85歳になり、超高齢社会は、待ったなしです。

介護保険制度は、度重なる改正で「変節」しました。みんなで創った介護保険制度は、何故こんなことになってしまったのか。

社会保障制度が持続可能なものになるためには、何が必要で、私たちは何をしていけばいいのか。これからのことを、介護保険制度の「産婆」と言われ、現在は事業者の立場でもある堤修三さんと一緒に考えたいと思います。ぜひご参加ください。

平日の夜で、いつもの場所と違います。ご注意ください。

◆ 講演：堤 修三 さん

〔元厚生労働省老健局長、元大阪大学大学院教授、元長崎県立大学特任教授、現社会福祉法人サン・ビジョン理事長〕

◆ 9月14日(月)18時半～21時

◆ 大阪中央公会堂 地下1階 大会議室

◆ 参加資料代：300円

